

プ
ラ
タ
ナ
ス



外国から入った木には、なぜかなじめないものがある。庭木として最近人気があるスモークツリー（カスミノキともいう）も、私にはどうもしっくりこない。品の良い木とは思うのだが。私自身の性格が下品なのか。

プラタナスは、私のお気に入りの木の一つである。グングン伸びてたくましくせに、かわいい玉状の集合果を風雅に揺らす。幹がブナみたいにまだらに剥けてくるのも、面白い味がある。バス待ちの退屈しのぎに、そのカサブタを剥いてみたりする（やつぱり下品む）。

大学今出川キャンパスの神学館横にある老大木は、じつはただのプラタナスではない。この木は、珍しい二種類の生物の宿でもある。

光田 重幸
（大学理工学研究助教授）

その一つは、食用キノコとして知る人を知るヤナギマツタケである。プラタナス類は強健な木で、これといった病気はないが、害虫はある。なかでも、幹にカミキリムシがよく入る。するとヤナギマツタケの胞子が飛んできて、菌糸をはびこらせる。幹の剪定あとから、巨大なキノコがニョキニョキ出ているのは見物である。

もう一つは、ニホンミツバチだ。根元のウロに巣を構えているらしく、小さな裂目からハタラクバチが、忙しく出入りしている。人の通るのなど、おかまいなしである。よほどこの木が気に入っているのだらう。もつとも、このハチはセイヨウミツバチとちがつてめつたに人を刺さず、性格は上品なようである。